

北但大震災からの復興を今に伝える「豊岡震災復興遺産」 (令和6年8月登録分に追加登録)



別添

豊岡中心部では北但大震災（1925年（大正14年））からの復興期に建築された鉄筋コンクリート造（RC造）建築物や木造防火建築物の多くが町並みとして残っており、北但大震災の2年前に発災した関東大震災後の復興遺産の多くが消失したことを踏まえると、希少性が高く、震災からの復興を今でもよく伝える重要な遺産である。

ストーリー		
17世紀末期	豊岡城下町	陣屋を中心とした内郭と円山川沿いに延びる町家で構成
明治～大正時代	大豊岡構想	1909年（明治42）に豊岡駅が設置され、円山川治水、丹但鉄道（現京都丹後鉄道）建設、耕地整理法を活用した市街地整備等のインフラ整備等、1921年（大正10）から現在の都市の骨格となる耕地整理の事業に着手
1925年5月23日	北但大震災	円山川右岸下流部を震源とするM6.8の地震が発生。豊岡町総戸数2,178のうち被害戸数1,887（全壊234、半壊171、焼失993、破損489）
1925年～1936年	震災復興期	従前の耕地整理事業を継承しつつ、道路幅やシックセンターの整備、耐火建築物（RC造）の推進など都市の防火性能の向上を図った
2000年代	近年	旧豊岡町役場庁舎の取り壊しが議論となり、「復興建築（群）」に注目が集まる。
2010年代		豊岡震災復興建築群調査の実施
2024年		『北但大震災からの復興を今に伝える「豊岡震災復興遺産」』を景観条例に基づく景観遺産に登録 旧豊岡町役場庁舎、旧兵庫縣農工銀行豊岡支店、佐藤家及び西村家住宅、旧5軒長屋、大開通南側長屋、鈴木家住宅、河見家住宅、旧但馬貯蓄銀行の8件（■）
2025年		前述の景観遺産へ追加登録 こうじゅ舎、衣川クリーニング店（RC造部分）、橋本結納店、服部本社、つるやの5件（■）



⑮ エンドー鞆本社社屋
昭和前期に建てられた木造2階建ての事務所兼住宅。タイル張りの洋風意匠の事務所棟と防火的な外装（外壁漆喰塗り、袖卯建の銅板張り）を施した和風意匠の住居棟が一体に立ち並ぶ構成は、震災復興期における豊岡の商家建築にみられる特徴である。



⑯ 旧木和田商店社屋
昭和前期に建てられた木造2階建ての事務所兼住宅。⑮と同様、洋風と和風の意匠の棟が一体的に立ち並ぶ豊岡の復興期における商家建築にみられる特徴を持つ。建物全体の腰回りを石張りとし、住居棟の袖卯建の端部が銅で被覆されているなど防火性能のある外装が特徴である。



⑭ 衣川クリーニング店（木造建築）
昭和前期に建てられた木造2階建ての店舗。関東大震災後に流行した通りの正面に防火目的の不燃素材を用いてファサードを洋風に仕立て上げた「看板建築」の特徴を持つ。

凡例	
■ (Red)	追加登録
■ (Blue)	R6登録
■ (Green)	R7登録

←至JR豊岡駅

登録する景観の構成要素
豊岡市中央町、元町

衣川クリーニング店（木造建築）、エンドー鞆本社社屋、旧木和田商店社屋からなる北但大震災の復興期に建てられた、近代的な洋風意匠や外装材に防火性能のある外装仕上げとした、地域の状況と時代性を反映した木造建築が構成する景観とそのストーリー

豊岡市役所

大開通り

生田通り

宵田通り

豊岡市立豊岡小学校